

かわいいふあ〜む

dayori

川合 浩平

皆さん、だいじょうぶでしたか~~~~~?
いやー、ビックリしましたね〜。

台風に引き続き、北海道であんな大きな地震があるとは…そしてそしてもう、過去の事になりつつある大停電…いろいろな意味で、あんなことあるんですねえ。もう過去になりそうですが、後半で振り返ってみようと思います。

そして今週末の台風25号。気持ちいいくらいサクッと札幌を目指してくるようですね。今回はちょっとやばい気がします。一ヶ月前の台風は大丈夫でしたが、今回はどうでしょう？何もなければいいですが…。

さて、畑ですが、悲しい事に人参はちゃんとシカに食べられております！シカめ、真ん中の方を調子乗って食べまくりです。参ったもんです。ただ、山ちゃ

んの看板がなければ、もっと食べられていた気がします。笑

そして、新顔野菜です。まずは「セロリ」。

これは筋が固めですが、美味しいですよ！めちゃくちゃ新鮮なので、風味と味はピカイチです。細い部分は細かく切ってドレッシングみたいに使うとめっちゃいいです！

次に「落花生」。

今年は発芽がすごくよかったのですが、冷夏で成長がイマイチでした。花は例年通りに咲いたのですが、実付きが悪くなく収穫量が少ない…。ただ、茹で落花生の品種なので、甘いですよ。未熟なものも少し入っていますが、未熟なりの美味しさがあります。



茹でて美味しい落花生

最後に毎年出している「さつま芋」。

これも寒さにやられてまして、収穫量がかなり少ない予想です。例年、いつも貯蔵が上手くいかなくて傷んでしまうので、今年は貯蔵しないで出します。お買い上げ頂いたら良く乾かして新聞紙にくるんで部屋の隅に置いておいてください。十度以下にならなければ傷むことはないのですし、一ヶ月ほど置いておけばとても美味しくなります。今年の品種は安納芋、シルクスイート、鳴門金時です。

そして、出るかで無いか分かりませんが、とても希少な「原木きのこ」シリーズ。

今年はきくらげ、なめこがラインナップ予定です。ごく少量しか取れないですが、見かけたらラッキーです。ぜひとも宜しく願いいたします。

さて、畑の事はサクッと終わりにして、地震の振り返りです。

自宅は二十四時間くらいで停電は終わったのですが、畑は二日ほど停電が続き、携帯の基地局のバッテリーが切れたのか最後の方は圏外になりました。

そして忘れていた事に気づけましたね。本当に星がキレイでした。もう二度とない(と息を吐きたいですが) 大停電の星空。宇宙からみたら、あの夜の北海道は周りの海と同化して、ほぼ真っ暗だったのでしょ。

北海道が真っ暗ななるといのは、たぶん北海道の送電が始まって以来一二〇年以上なかったと思うので、とても貴重な時間だったと思います。ある意味、一二〇年前にタイムスリップしないと見れない夜空と言えますね。(もちろん、人工呼吸器・透析など電気が無ければ生きることが出来ない方、大変だった方がいらっしゃることも重々承知しております)

そして、人の優しさ再認識でしたね。まずは略奪もさほどなければ、グスグスした感じもなし。畑に来た人は、普段話したことないマンションの隣の人と声を掛け合ったりしたそうですよ。「だいじょうぶでしたか〜？」から始まり、給水車来たとか、あそこのスーパーは何が豊富だったとか。しまいには、ココの野菜を隣の人の子供に食べさせるって、お隣さんの分も買って行ったりとか…。かわいふあ〜むは秘境過ぎるので変わりましたけど、小別沢の他の農家さんの直売所は大フィーバー。

もちろん略奪も海外に比べたら少なすぎるし、信号も点いていないのに一時停止をするあの礼儀正しい車たちや、炊き出しをする飲食店の方々。

四日の新聞に出ていましたが、ブラックアウト

中(二日間)の車の事故件数は、物損事故一二八件、人身事故は九件だったそうです。信号は止まっていて、夜も真っ暗だったのに、この件数ってすごくないですか？

そして交通整理にあたる警察官、とても頼もしかったですね。後日警察官の友人に交通整理の件を聞いたら、「そんなの当たり前ですよ！」とのことでした。

おいおい、かっけーじゃん！笑

けどもちろん、いやらしさも再認識でした。開いている店でカップラーメンを三箱買い占めたり、

あまり燃料減ってないのにガソリンスタンドに並んだり。(いや、もしかしてカップラーメンは特養ホームや病院関係者とかが入院患者分を買っていたのかもしれませんが) けど、ガソリンスタンドに並んでいるのにアイドリングしながらの車っていましたよね。ガソリン足りなくて並んでいるので、そこはエンジンを切って並ぶなどガソリンを大切にすべきのような…。あと、不安心に付け込んで、千載一遇のチャンスとばかりに商売する人もいましたね。これからは、少し多めに車の燃料入れておきましょうね！



貴重な原木きくらげ

しかし、どれもこれもまだ季節的、時間的に余裕があったから出来たことです。皆さんも気づいてますよね？ あと一ヶ月前後してたら、そして真冬だったら、そして時間が平日昼間だったら状況はガラリと違って

いた
でしょう。
もちろん、ブラックアウトにならない可能性もあったのかもしれませんが、なっていた可能性も否定できません。過ごしやすい季節のブラックアウトとは違い、過酷な季節のブラックアウトは「死」に直結します。

まず、八月頭だと暑いので冷蔵・冷凍食品の廃棄が増えた可能性があり、今回以上に食品の流通の復旧が遅れたことが予想されます。一ヶ月後の今時期だと朝晩の冷え込みが始まるので、冬に向けてストーブによる火災の可能性もあります。

そして、一番恐ろしいのが、今回の地震が真冬だった場合。誰も「星がキレイだった」とか言えないレベルの大災害になったでしょう。

まず土砂崩れだけではなく雪崩による被害も拡大し、災害はかなり大規模になったと思います。交通網の寸断が予想され、山間部はもちろん斜面の下にある道路は雪崩により多数の道路が通行不可になってもおかしくありません。

もちろん、住宅が雪崩に飲み込まれる方が土砂崩れよりも多い可能性があり、生き埋めになる人の数がかかなり増えたと思います。かなり広範囲に被災地域が出るので今回ほど被災地に手厚い救護が期待出来なく、手の届かない被災地もかなり出ると思われます。たった一日の停電でも夜間はかなり冷え込むので、家の中でも凍死する人（特に

高齢者の方）もいると予想されます。車も冬道で大渋滞になり、道も寸断されるとなると、今回より心理的な負荷が大きく、大パニックになっていたと思います。

そもそも、冬は除雪車が動けなければ物流の

停滞は確実で、仮に本州から来た食料があっても行き渡らない状態が長引きます。真冬の北海道の食糧事情はご存知の通り、生鮮野菜のほとんどが道外産ですから、生鮮食料自体を手に入れることが厳しくなります。ですので、

買えるのはレトルト食品等しかないので余計品薄になりますし、冬の交通事情から考えると何件もスーパーを買いまわることも難しくなります。

ヒーター付きの水道管が凍り付き、その数は膨大になるので復旧はかなりの時間と費用を要するでしょうし、そもそもトイレ自体も使えなくなる家も多くなるので、人口密集地では問題になるでしょう。

今回は札幌では都市ガスは一部を除き使えたようですが、冬に地下のガス管が破損したら、雪をどかすことから始まるので、復旧にはかなりの時間と燃料を必要とし、停電の混乱から完全復旧は春になる可能性もあります。暖をとるにしても戸建ての方は灯油タンクがありますが、ポータブルの灯油ストーブを備えている人はごくまれでしょうし、暖を求めて車で寝たとしても吹雪けば一酸化炭素中毒の危険があります。

たとえ一日目は車で寝たとしても、二日目、三日目までは車の燃料が持たないと思いますし、新しく燃料を手に入れる事が出来ない都市部の住人



コリンキーかぼちゃ

ヒーター付きの水道管が

は時間が経つにつれ暖を取る手段が皆無になると
思います。飲み水や食料を取りに行つて家に帰つ
て来ても、冷えた体を温める手段がなく、自宅で
低体温症になりそのまま、もあると思います。

もちろん避難所もあるでしょうが、あつという
間に収容限界人数を超えることは目に見えてい
ますので、避難できない方も多数出るとしま
す。こう考えてみると、都市部は思った以上に
多数の方が亡くなる気がします ……。

その点、田舎の農家は重機を
持っているし周りには燃やすも
のも何でもあり、発電機もあり
備蓄もそこそこしているでしょ
うから、少人数の胃袋を満た
すには充分過ぎる食料と燃料
があります。

都市部より災害に強く、唯
一の弱点としたら、交通網の寸断が懸念されま
すが、家が壊れなければそもそも暖と食料に困ら
ないので、あまり時間に縛られず対処することが出
来ます。災害当初から食料、燃料を奪い合う都市
部とは明らかに違うでしょう。

また、昼間に停電だと多数の人間がエレベ
ーターに閉じこめられ、車が多い時間でいきなり信
号が停止すればかなりの渋滞を招いたでしょう。
調理中の時間帯だと火災が発生した可能性もあり
ますし、ごみごみした街中で数件の火災が同時に
集中して起きたら、札幌中心部はもしかすると火
の海になっていたかもしれません。

地下鉄が停電になれば、暗い線路を次の駅まで
歩く事になるでしょうし、観覧車などはかなりし
ばらく閉じこめられたままになりますよね。

幸いにも今回の地震、季節、時間を考えると一
番被害が少ないタイミングだったと思います。

「泊」を動かせという論調も出てきていますが、
僕個人はそもそも今回の様に発電所の分散等のリ
スク管理の出来ない会社に原発の運用を任せて本
当に大丈夫なのか、という議論も必要かと思いま
す。「泊」もですが、原発である以上なにがあつ

ても「想定外」の一言で運用者が責任を回避する
事は、もうこれ以上認めていけないのです。

現場の人たちがとてもがんばっているだけに、
方向を定める上層部がうまく機能していないの
が、残念すぎます。

あ、ついつい真面目に……笑

なにが言いたいかという、今回は「きっかけ」。
こんな体験をして、今までと同じ考えでいいのか、
と。



自分達が立っている足元は、
思っているより「脆弱」だった。
当たり前のように思っていた
インフラは、とても「脆いもの」
だった。

やはり、もっと積極的に真剣
に色々関わっていく事が必要
なんじゃないか、と。

平時は他人の仕事のおかげで自分の生活が成り
立ちますが、非常時は他人の仕事がなくなるので
自分の生活が成り立ちません。

忘れがちですが、自分で生きているつもりでも、
「他人の仕事に依存して生活」しています。大切
な人や周りの人や自分の「イノチ」を守る準備、
皆さんも少しずつ備えていきましょう。

まずは冬に備えてカセットボンベとガスコン
ロ、出来れば昔ながらの灯油ストーブを。七日分
くらいの水とレトルトの食糧と、ほんの少しの安
らぎのお菓子を。

そして最後に、隣の人とのつながりを。

かわいふあ〜む 川合浩平

